

当院での院内感染対策について

先日ご報告したとおり、当院で職員一人の新型コロナウイルス感染症陽性事例を確認しましたが、その後患者さん及びスタッフとも感染を疑う例は発生していません。

当院感染対策についてご説明します。

・入院患者について

継続した入院患者さんに関してはすべての患者さんが感染を否定出来ないと考えて、食事介助、口腔ケアなど感染可能性が高い処置ですべてスタッフはガウンテクニックやフェースシールド着用などを行っています。また発熱など感染を疑う症状が発生した場合、感染源の確認を行うと同時に新型コロナウイルス感染症の否定が出来ない場合はID NOW(等温核酸増幅法NEAR法、アボット社)により検査を実施し、スタッフはガウンテクニックなど接触飛沫感染対策、エアロゾル感染対策を行います。

新規入院の場合は必要に応じて長崎県補助事業である入院時PCRを実施し感染可能性の軽減を図っています。また入院後14日間は観察スペースで過ごしていただき、一般の入院患者さんとは動線を分け、感染対策は接触飛沫感染対策及びエアロゾル感染対策を徹底しています。必要時は上記の通りID NOWや抗原検査がいつでも実施出来るように準備しています。

・スタッフについて

職場内感染を防ぐことに重点を置いて対策しています。病棟など最前線の対策だけでなく、これまでクラスター発生源として指摘されているバックヤードもケアしています。環境整備以外にも、マスクを外す可能性が高い食事場面では食事場所の人数制限、換気、会話はマスクをつけてからなど各種ルールをスタッフは遵守しています。更衣室なども換気施設が1時間2回換気程度であり空気清浄機の設置、ドア前に使用人数把握のためのマグネット設置、私語の禁止、使用時間の短縮をルールとして採用しています。

全体としては健康管理として長崎県内団体向け健康観察チャットN-CHATを昨年より導入し院内体調不良者を早期に発見し検査や就労制限などを行っています。特に体調不良を隠して勤務することがないように、人数が少なくなる場合の勤務体制などを話し合い休みやすい環境を提供出来るようにスタッフ全員で気を配っています。

スタッフの行動制限も同様に昨年より続けています。感染ステージに応じてですが、家族以外との会食の禁止(現在は外食の自粛)や感染拡大地域への渡航制限、感染可能性が高い換気の悪い店舗、マスクを外した客が会話するもしくは歌う店舗などの利用自粛も続けており、スタッフも気が休まらない行動制限が続いています。

・ご家族について

長崎県内の感染ステージに応じて面会制限を設定し実施しています。他の医療機関からはやや厳しい制限を設けておりご不便をかけているところです。現時点では危篤時や必要時などに事前に登録していただいた1名のみ感染対策を実施した上で入棟を認めています。その他の場合は外来ロビーや携帯電話からのフェースタイムやハングアウトを用いて予約制でのビデオ面会をお願いしています。昨年からはなかなかご家族には自由がなく重ねてお詫びいたします。

幸い、現時点では問題となる体調不良者などの報告はN-CHATや各部門からも入っていない状況です。これからも当院では出来る感染対策を確実に実行したいと考えています。宜しくご協力のほどお願いいたします。

2021年8月29日 南野病院 院長 南野 淳